

★CDの特徴の見分け方にお迷いの方へ★



1. タイトル欄に**赤い文字の表記がないもの**は、現在のボリビア・folkローレで最も一般的なスタイルです。これらは、1960年代以降盛んになった「現代folkローレ」「ネオ・folkローレ」などと称されているもので、主に民族楽器チャランゴ・ケーナ・サンポーニャやギター・打楽器を演奏しながら、コーラスやソロ・ボーカルが入ります。現代的・ポピュラーな演奏形態で、伝統的なモチーフの用い方は様々です。土着的な楽曲・形態（アウトクナ音楽）を含んでいるものも多数あります。少数ですが、器楽のみ、あるいは器楽が大半を占めるものもあり、それらには「**器楽**」と表記してあります。
2. 祭儀・生活・風俗などの土着的な趣きを持った音楽を、「**アウトクナ**」と表記しています。アンデス高地以外の地方でも様々なアウトクナ音楽がありますが、このリストでは便宜的に、アンデス高地のアイマラやケチュア等の伝統音楽をこう表記しています。サンポーニャや各種の笛・打楽器等で演奏されるシクリアーダ、モセニャーダ等が良く知られています。アウトクナ音楽は近年ステージ化がめざましく、現代的なものとの境界が微妙なものもありますので、いろいろ聴いて比較してみてください。なお、ファンが増えてきたポトシ音楽には「**ポトシ**」と表記してあります（ポトシでも1.や3.に分類しているものもあるので、念のため…）。
3. 19世紀末～20世紀半ば、特に第2次世界大戦前後、放送やレコード等の音楽市場の成長とともに隆盛し、1960年代まで大きな地位を占めたジャンルが、「**クリオージャ音楽**」です。クリオージョ（ジャ）とは、主に南米生まれのヨーロッパ移民の子孫を意味しますが、都会文化のなかで育まれたヨーロッパと南米の混血音楽文化の土壌には、豊かなものがあります。ギターやマンドリン、アコーディオン、バイオリン、楽団、オーケストラ等で演奏され歌われるクエカ・バイレシート等（ウアイニョもあります）の舞曲や歌曲の味わいは素晴らしく、最近このような古風なスタイルを志向する若手演奏家も増えてきています。
4. タリーハ周辺の渓谷地方、低地のチャコ、ポトシの南部を、「**南部の音楽**」と総称しましたので、1.～3.のものも若干含まれています。アルゼンチン北部と接し、気候風土、人心も共通性が多く、タリーハの明るくエカは有名です。近年はチャコ・サルタと共通性を持つチャコ・タリーハ地方の音楽が力をつけていて、サンティアゴ・デル・エステロの影響を受けたチャカレーラもたくさん聞けます。
5. サンタクルス地方のものを「**東部の音楽**」としています。パラグアイやブラジル、アルゼンチン大河地方等とも共通性を感じさせる文化圏で、亜熱帯のフォーク・ダンスや、かつての「ラテン音楽」のダンス・ホール全盛期を彷彿とさせる、カルナバル、ポルカ、タキラリ等が有名です。
6. 「**チャランゴ奏者**」「**サンポーニャ奏者**」「**歌手**」などとあるものは、ほとんど1.のようなスタイルの伴奏が付いていますが、楽団ものもあり、その旨紹介欄に記載してあります。
7. とときどきテレビに映るオール口のカーニバルで聞こえるのは、バンダ（プラス・バンド）の演奏です。バンダは地方の祭でも一般的なもので、これぞボリビア音楽！とこだわるファンもいます。「**オムニバス他**」の欄をご覧ください。この欄には、ボリビア音楽入門用からこだわリファン向きのものまで、興味深い盤が多数あります。

※ 上記の分類は、地方的な特色や一部時代的な特色によって、音楽の傾向を便宜上区分けしたものですから、地理的な区分とは必ずしも一致していません。たとえば、渓谷地方は北はユンガス地方、コチャバンバ、スクレ、タリーハへと続く一帯、チャコは広大なサンタクルス地方の南部に広がっていますが、その辺についてはこの分類では触れていません。（小林隆雄）

